

開催日時・場所
<p>令和 2 年（2020 年）7 月 31 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分 滋賀県庁大津合同庁舎 7-D 会議室</p>
出席委員
<p>井手委員、清水委員、田中賢治委員、津野委員、西野委員、平山委員、堀越委員、脇田委員（欠席：佐野委員、田中克委員）</p>
主な内容
<p>・マザーレイク 21 計画の指標を整理し、琵琶湖の状態を把握するための資料である「びわ湖なう 2020～指標でみるびわ湖と暮らしの過去・現在～（案）」および今年度に終期を迎えるマザーレイク 21 計画の「ふりかえり報告書（案）」について、内容の妥当性と効果的な編集に関するご意見を頂いた。</p>
主な意見
<p>■「びわ湖なう 2020」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全窒素について、平成 15 年ごろからずっと下がってきているが、その理由を解析していくことが必要。 ・15 ページの DO のグラフについて、1 か月で物凄く変動している。たまたま捉えた現象のように見えないよう、データの出し方等を工夫すべきではないか。 ・13 ページの強熱減量、湖底に有機物がどれくらいたまっているかの指標であるが、南湖で湖底にたまっている有機物の量が増えているように見えるのが気になる。 ・環境こだわり農業の作付面積がこのところ減少傾向になっているのはなぜか。 →国が温暖化に特化した取組を環境こだわり農業として認定する傾向にあるため。 <p>■「ふりかえり報告書（案）」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マザーレイクフォーラムをどうしていくのか、もう少し評価と課題のあぶり出しをして、数値として表して評価していく必要があるのではないか。 ・全体を通して、何を伝えたいか端的に見えたほうがよい。マザーレイク以前、1期と2期で、どのように取り組みの仕方が大きく変わっているのか、前面に出してはどうか。 ・今の滋賀県の人口の大半を占めている若い人たちの新しい感性を入れつつ、新しいバランスをとっていくのがこれからの課題。 ・この報告書を読む対象者が誰か、ぼんやりしているのではないか。2期までを振り返って終わるのか、次につなげるためになのか、明確にすると全体がマッチするのではないか。 ・マザーレイクの中で培ってきた精神は継承しないといけない。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖の現状のより正確な把握に向け、調査と検討を進める。 ・マザーレイク 21 計画終了後の体制について、いただいたご意見を基に検討を進めるとともに、ふりかえり報告書の内容が今後の体制につながるよう、記述内容を検討する。

マザーレイク 21 計画学術フォーラム 委員名簿

五十音順（敬称略）

	委員名	専門 研究分野	所属、役職	備考
1	井手 慎司	住民活動論	滋賀県立大学環境科学部 教授	
2	佐野 静代	地域環境史	同志社大学文学部 教授	
3	清水 芳久	環境質管理	京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター 教授	
4	田中 賢治	水文・水資源工学	京都大学防災研究所附属 水資源環境研究センター 准教授	
5	田中 克	魚類生態学	京都大学 名誉教授	
6	津野 洋	水環境工学	京都大学 名誉教授	
7	西野 麻知子	生物多様性保全	元びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 教授	
8	平山 貴美子	森林生態学	京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授	
9	堀越 昌子	食環境学・食文化	京都華頂大学現代家政学部 教授	
10	脇田 健一	地域社会	龍谷大学社会学部 教授	